

日本語の「物」と「品」の意味の分析

(形態論と意味論からの考察)

チャンラ・サトリア

0242002

マラナタキリスト教大学

日本語文学学科

2006

## 序論

この論文で、日本語の「物」と「品」について研究する。単独で使われる時には、「物」は「品」と同じ意味を持っているが、他の意味がある。また、その言葉は別の意味を持っていて、自由に交換できない。「物」と「品」は他の言葉に結合して、意味は変わる。

この論文で、「物」と「品」の言葉の原理を研究する。そして、「物」と「品」の使い方と意味の違いを研究する。それから、日本語の「物」と「品」の他の意味を研究する。

この研究で、形態論と意味論は関係がある。形態論は、言語学において形態素について説明する学問で、意味論は、言語学において文と言葉の意味を説明する学問である。

「物」と「品」は形態素で、意味を持っている。意味論から日本語の「物」と「品」の使い方は分けられる。「物」の読み方は「モノ」、「ブツ」と「モツ」で、「品」の読み方は「ヒン」と「シナ」である。単独で使われる場合、「物」と「品」は自由形態素と言う。「物」を「ブツ」と「モツ」と読む場合は、単独で使われない。そして、この場合は拘束形態素と言う。

町田と初山は、自由形態素は単独でも文を構成することができる形態素を自由形態素と言うと述べていて、拘束形態素は必ず他の形態素と一緒にな

ってしか文を構成できない形態素を拘束形態素と言うと述べている。(町田、  
初山：51)

## 本論

この研究には、言葉の意味の違いによって、「物」の原理と「品」の原理を分ける。「物」と「品」は、一般的な意味と特別的な意味に分けられて、それに他の意味がある。一般的な意味は、広い意味を持っている言葉で、または、普通の物を示す。一方、特別的な意味は、特殊な意味を持っている言葉である。

1. (25) 捜し物?お兄ちゃん。
2. (78) 香料(スパイス)や絹(シルク)はたいせつな貿易品で、アジア貿易は大きい利益があったので。

1の文の「捜し物」は、動詞の「捜す」と名詞の「物」が結合して、名詞になる。また、「貿易品」は名詞の「貿易」と名詞の「品」が結合して、名詞になる。その二つの言葉の意味は、一般的な意味を示す「物」と「品」である。他の例は、「小物」、「荷物」、「本物」、「中古品」、「不用品」、「自然物」、「食料品」、「雑貨品」、「商品」、「輸出品」、「輸入品」、「献上品」、「遺品」などがある。

3. (29) うったり、かったりする商品作物がおおくなったのです。
4. (74) みんな一心に作品を仕上げます。
5. (18) アニミズムは動物、植物、自然現象の中に精霊があるという、宗教的な考え方です。

3の文の「作物」は、名詞の「作」と名詞の「物」が結合して、名詞になる。また、「作品」は、名詞の「作」と名詞の「品」が結合して、名詞になる。その二つの言葉の意味は、特別的な意味を示す「物」と「品」である。他の例は、「建造物」、「織物」、「洗濯物」、「敷物」、「海産物」、「収納物」、「獲物」、「漬物」、「食べ物」、「飲み物」、「部品」、「軍需品」、「薬品」、「工芸品」などがある。

5の文の「動物」は、名詞の「動」と名詞の「物」が結合して、名詞になる。「植物」は、名詞の「植」と名詞の「物」が結合して、名詞になる。「動物」と「植物」は、生きることを示していて、他の例は「生物」、「人物」、「怪物」などがある。

6. (61) 全く・・・物騒な世の中になったもんだぜ！！
7. (103) 何てすごい濃厚な脂と上品なうまみに満ちたお寿司だ！！！！

上の例の「物騒」と「上品」は、特別な意味を持っている。「物騒」は、名詞の「物」と動詞の「騒ぐ」が結合して、形容詞になる。「上品」は名詞の「上」と名詞「品」が結合して、形容詞になる。他の意味は、物ではないことを示しているという意味である。例えば、「物惜しみ」、「物足りない」、「物語」、「出し物」、「物理」、「品種」、「品位」などがある。

8. (105) 店によって売っている品物や値段が違います。
9. (106) いまだ米や布が物品貨幣として使用されていて、地方ではあまり流通せず、むしろ珍重がられた。

以上の例の「物」と「品」は違う意味を持っていて、その二つは交換できない。例えば、「物」と「品」の結合が「品物」と「物品」の時は交換できない。「品物」は一般的な意味を持っているが、一方「物品」は商売に係る物の意味を持っている。

## 結論

「物」は「品」と共に同じ意味を持っていても、実は基本的な違うことがたくさんであるので、その二つは交換できない。例えば、「作物」と「作品」の意味は違って、「物」は「品」に交換できない。

「物」を使う言葉は、日常の生活によく使われるが、「品」という言葉は、「物」より、もっと大切な物を表す時に使われる。普通、「品」は芸術なことと人工のことと歴史のことを示す。また、「品」は、商業界のことと工業界のことに関係にしている、「物」は自然環境に関係している。「品」は、製作したことを示す。

「品」は、経済的な意味を持っていて、売ったり、買ったりされる物である。「物」は、食べ物と飲み物の種類を示すことができ、その「物」は、人間に消費される。

「物」は、生き物または命を持っている物に使われている。しかし、「品」は、生き物、または命を持っている物に使われない。「物」と「品」の一般的な意味は同じであるが、実は基本的な意味は違うことがたくさんある。そして、日本語の「物」と「品」は交換できない。「物」を「品」に交換したら、言葉の意味が全然違うことになる。言葉を使う時、「物」と「品」の使い方は、非常に大切なことである。